

第3学年 社会科学学習単元の記録

1 単元名 農家の仕事

2 実施時期 9月～1月 30時間完了（その内、総合17時間）

3 目標

(1) 地域には農作物の生産にかかわる仕事があり、自分たちの生活を支えていることを理解することができる。
(知識・技能)

(2) 農家の仕事の様子について、学習課題や予想、学習計画を考え、表現することができる。視点にもとづいて見学したりインタビューしたり、資料を活用したりして、農家の仕事の様子について必要な情報を読み取ることができる。(思考・判断・表現)

(3) 地域にある農家の仕事の様子に関心を持ち、意欲的に調べることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

4 単元について

(1) 児童の実態と児童にかける願い

本学級の児童は、学習に対し積極的に取り組み、意欲的に発言する児童が多い。1学期では、トウモロコシの栽培を地域サポーターの協力の下で積極的に取り組んできた。調べたことをまとめたり発表したりする力を高め、周りとの協力してみんなに発信することができた。しかし、自分で考えて活動したり、自分の考えを仲間に伝えたりすることには消極的になりがちであった。また、自分たちの住む大浜地区に対して愛着はあるが、地域を守り、大切にしようとする人たちの思いについてはあまり意識がない。そこで、碧南の農産物の栽培を通して、地元の人・こと・ものをもっと知ろうという好奇心を育てたい。そして、農家さんと関わりをもつことで、生産者の工夫や苦勞、思いに直にふれ、地域を守り大切にしていることに思い至ることができるようにしたい。

そこで、見とおす力を育むために、碧南の特産物である「にんじん」をよりよくする方法を考え、実現していくことで、目標をもって学習に取り組むことへの充実感を実感させたい。そして、やりぬく力を育むために、地域サポーターとともに最後まで愛情をもってにんじんを育て、目標に向かい続ける大切さを学ばせたい。

(2) 教材観

本単元では、農家の仕事の様子を通して農家の工夫や苦勞、自分たちの生活との関わりを学習する。碧南市には全国でも有名なブランド野菜「へきなん美人」がある。そして、学区にはにんじん畑が豊富にあり、実際に訪問・見学させていただく機会も設けることができることから、農家さんの工夫や苦勞を、直接見たり、聞いたりすることができる。さらに気になったことについて触ったりして実物に触れて確かめることも大きな利点である。また、校内の畑で、総合の授業と関連してにんじんを育てており、授業で学んだことをそのまま生かした活動を行うことができることから、興味・関心をもたせる最適の題材であると考えた。

(3) 指導観

指導にあたっては、児童が地域社会の栽培、流通、消費の流れについて、興味・関心をもって主体的に学び、地域社会の社会的事象の特色や相互の関連などについて考えていくことのできる授業を作るために、総合的な学習の時間でのにんじん栽培と関連させていく。児童が実際に栽培していくなかで生まれた「なぜ」、「どうして」という疑問を、自分なりの予想を考えさせ、その答えを知るためにはどのようにするとよいか、確かめたり、調べたり、進んで質問したりするなど、自分たちで解決していけるようにすすめていきたい。

そして、活動の中で地域サポーターとかかわることで、栽培、流通、消費の流れについて実感を伴って理解し、農家さんの大変な苦勞があることにも気付かせ、地域の生産活動の継続や発展を願う心情や態度を育てていきたい。

本校では、自己有用感を高め、主体的に学習に取り組むことができるよう、学習リーダーを置いて授業を進めている。3年生は、学習リーダーを楽しんで務めることができている。本単元でも授業のあいさつやめあての復唱だけでなく、話し合いの司会を務めるなど、積極的に授業進行に関わらせ、より多くの子が自分の考えを発言できる活発な授業を目指したい。

5 まとめ

学習リーダーの活動	地域サポーターとの関わり
<p>○私たちの市ではどんな野菜が作られているのかな ① ②③ ○へきなん美人を育てて観察しよう (総合) ○へきなん美人について調べよう ④～⑩ 学習リーダー1：あいさつや振り返りのリード</p> <p>授業のあいさつや導入時、終末時の振り返りの活動で児童が進行を行った。はじめはカードを見ながらの進行であったが、次第に自分の言葉で進行ができるよう話型になってきた。普段挙手があまりできない子が積極的に挙手や発言するなど、学級全体で授業を進めていこうとする雰囲気を作れた。振り返りでは、学習リーダーが最後に発表し、他の児童の振り返りの模範になった。</p> <p>○へきなん美人をもっと広げていくにはどうしたらよいか考えよう ⑪ 学習リーダー2：取り組みの姿に模範の姿が見られ始める</p> <p>単元の中ごろから、学習リーダーが授業中での教師の手伝いを任せる部分を増やした。授業中の指示も自分の言葉で端的に伝えることができるようになってきた。振り返りでは、学習リーダーが最後に発表することが定着してきた。「○○さんや、○○くんの振り返りでも言っていたように」のように、他の児童の振り返りを踏まえて、まとめながら振り返ることができるようになり、学級全体で、振り返りを深めることができた。</p> <p>○広げよう作戦を実行しよう ⑫⑬ (総合) 学習リーダー3：授業内の出場が増える</p> <p>授業前に教師と打ち合わせを行い、めあてを決めたり、1次発言を指名したりするなど、授業内の学習リーダーの出場が増えた。めあてを学習リーダーと教師が打ち合わせて決めることで、学習リーダーが本時の学習内容を見通して考えることができるようになってきた。他教科の学習リーダーの活躍を参考にして取り入れている姿も見られ、学習リーダー同士が影響を及ぼし合うようになってきた。</p>	<p>地域サポーター1 ②にんじんの栽培、育て方の説明をする ⑦農家の畑の見学で、育て方の説明をする</p> <p>実際ににんじんに携わっているプロの説明を聞くことで、にんじんを育てたいという思いだけでなく、にんじんそのものへの興味・関心が高まっていく様子が窺えた。</p> <p>地域サポーター2 ⑩子どもたちの調べた内容を認め、疑問に答える</p> <p>本時に至るまで、地域サポーターに調べたことや、広げる方法を知ってもらうことを目標に学習を行った。明確な目標をもち、意欲的に学習に取り組む姿が見られた。そして、今までにんじんについて調べてきたことや、それを広げる方法を聞いてもらい、認めてもらうことで、実際に自分たちの意見を取り入れてもらえる喜びを実感している様子や次時への活動意欲が高まる様子が窺えた。</p> <p>地域サポーター3 農業祭への参加協力</p> <p>自分たちの学習成果を地域に発信する場を用意してもらったことで、生き生きと学習成果をまとめた冊子を配布したり、紙芝居を朗読したりし、地域の方と交流しながら目標を達成する喜びを実感する様子が窺えた。</p>

本単元での育てたいキャリア教育の力に関して

見とおす力に関する子どもの姿

単元のはじめは、なんとなくにんじんを育てて食べたいという思いで活動を行っている児童がいたが、地域サポーターとかかわっていく中で、へきなん美人に対する思いが大きくなり、「へきなん美人をもっと広げたい」という目標をもち、具体的な方法を考え、地域サポーターの協力の下で目標を実現することができた。本単元で、目標を設定し見通しをもって活動する楽しさを味わいながら、最後まですすんで学ぶことができた。

やりぬく力に関する子どもの姿

9月から始まった単元だが、地域サポーターによるにんじんの栽培の説明や農業祭の参加協力によって、子どもたちは、にんじんに関心・愛着をもち、にんじんに対し、一人一人が願いをもち、単元を通して意欲的ににんじんの栽培、調べ学習、地域への発信などの活動を行うことができた。本単元で、地域で働く人の思いに触れ、農家の思いや収穫する大切さなどを感じながら最後まで進んで学ぶことができた。



にんじんの「プロ」(地域サポーター)



育て方を熱心に聞く子どもたち



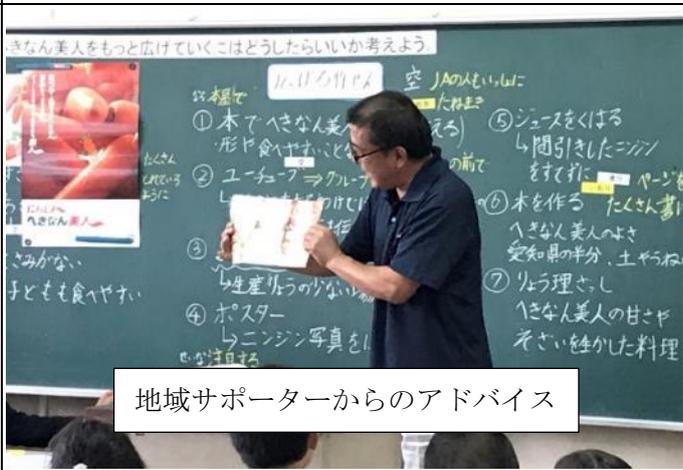
学習リーダーによるにんじんクイズ



にんじんの魅力を広げる方法を提案



他の班の発表を聞く児童



地域サポーターからのアドバイス



「たくさん採れたよ！」 にんじんの収穫



農業祭で紙芝居によるにんじんを広げる活動